

多変量解析 : 文化項目の樹状図分析

| | |
|----------|---|
| 著者 | 大林 太良 |
| 雑誌名 | 国立民族学博物館研究報告別冊 |
| 巻 | 011 |
| ページ | 217-219 |
| 発行年 | 1990-03-10 |
| その他のタイトル | Statistical Analyses : Cluster-Analysis (Culture elements) |
| URL | http://doi.org/10.15021/00003652 |

Ⅲ. 文化項目の樹状図分析

大 林 太 良*

1. はじめに

2. 結果

1. はじめに

杉田は、文化の樹状図を作製したときと同じデータをもちいて、文化要素の樹状図を作製した。今回も ϕ 係数によって計算がおこなわれた。この樹状図は、343要素のうち相関の高い241要素だけを分類している（巻末の附図2の樹状図を参照）。

2. 結 果

文化要素の分類も、諸文化の樹状図がすでに示唆したような、はっきりした地理的2分（東南アジア／オセアニア）を示している。最初の55要素（タロイモ水田栽培から漁撈用弓矢）までは、オセアニアに頻出する要素である。したがって、それらは文化要素の分類におけるオセアニア巨大群を形づくっている。このオセアニア巨大群は、2群にわかれる。一つは、ポリネシア=ミクロネシア群であって、タロイモ水田栽培から地炉までの26要素をふくんでいる。

第2の群はメラネシア群であって、初経時における隔離から、漁撈用弓矢にいたるまでの29要素である。

この段階までのグルーピングは地理的性格を示しているが、これからさきの細分化は、地理的というよりもむしろ分野別、テーマ別という性格である。したがって、ポリネシア=ミクロネシア群の最初の13要素は《生業クラスター》と称してよく、タロイモ水田栽培、複式釣りばり、パンノキ、松明漁などの要素からなっている。

これとほとんど同一の分類の仕方を、東南アジア巨大群においてもみとめることができる。つまり、最初の分類は地域的な規準にしたがっているが、それから先の細分

* 東京大学教養学部

化は分野別になっている。この東南アジア巨大群は、中核部東南アジア群と、周辺部東南アジア群の2群にわかれる。前者は、脚絆から高床穀倉までの88要素、後者は石製飾り輪から幼児婚約までの98要素をふくんでいる。

東南アジアのきわめて高度な文化的複雑性を反映して、東南アジア中核群は、かなりルースな2群、つまり「社会・宗教」亜群と「生業」亜群からなる。前者は脚絆からベテル噛みまでの40要素、後者は金銀細工から高床穀倉までの48要素をふくんでいる。

周辺東南アジア群は、ヘスペロネシア亜群と山地民亜群にわかれる。前者は、石製飾り輪から集塊村落までの51要素で、ことに東南アジア島嶼部のヘスペロネシア語派住民の生活様式を反映している。後者は、耳朶穿孔から幼児婚約までの47要素をふくみ、東南アジア大陸部の山地民（ことにアッサムの）の文化輪郭に対応している。より細密な分類の段階になると、少数の要素からなる一連のクラスターがならぶ。これらのクラスターは、ときには諸要素間の機能的な連合によって形づくられている。たとえば、メラネシア群中に、初経時の隔離、月経小屋、産小屋からなる小クラスターがある。これらは、女性の生殖機能を公分母としているクラスターである。おなじくメラネシア群中のもう一つの小クラスターは、年齢集団による男性の組織化をあらわす諸要素をあつめたものであって、若者宿、男子舎屋、年齢階梯制、集団的成年式からなっている。

機能的連合の若干の例は、東南アジア巨大群にもみられる。たとえば、ヘスペロネシア亜群においては、双系的親族構造をしめすクラスターがあり、ハワイ型親族呼称、選択居住、エスキモー型親族呼称がある。これとならんで山地民亜群には、父系的要素の小クラスターがある。つまり、レヴィレート、母方縁組（一般交換）、父方・夫方居住、父系出自、一夫多妻婚、婚資である。

機能的に連合した諸要素の小クラスターは、社会組織の分野ばかりでなく、生業の分類にもみられる。たとえば、メラネシア群のなかには、根栽類栽培に焦点をおいた小クラスターがあり、サツマイモ、ヤムイモ、タロイモをふくんでいる。東南アジアでは、生業亜群が同様な二つのクラスターをふくんでいる。一つは水稲耕作を中心としており、棚田、水田漁撈、犁、水稻、ウシ、水牛をふくんでいる。第2のクラスターは焼畑耕作を中心としており、刈上げ儀礼、稲魂、初穂儀礼、田屋、焼畑、赤米、たて杵と臼、竹籠、箕、ふるい、ざるからなっている。

東南アジアにおいては、小さいし中規模のクラスターであって、特定の文化類型の像をあたえてくれるようなものがある。たとえば、その一つは、東南アジア高文化に

特徴的な要素、つまり、金銀細工、宮廷、絹、絃楽器、色と方位の連関、牛車からなっている。このクラスターは、その要素の大部分が生業活動とは関係ないにもかかわらず、「生業」亜群の一部をなしている。

その他のクラスターには、地理的にまとまっているものもある。山地民亜群は、アッサムの部族諸文化に特徴的な要素からなる小クラスターをふくんでいる。つまり、勲功祭宴、穿孔着柄法、地中出現神話、発火籐、猪牙製飾り、子安貝装身具からなるクラスターである。社会・宗教亜群のなかには、華南とインドシナ北部に特徴的な要素からなるクラスターがふくまれている。それは、脚絆、弩(いしゆみ)、仲人、ターバン、複数魂、地下他界、天上他界、という要素からなっている。